

2026 年 6 月 15 日

各 位

株式会社北洋銀行

お客さま 22 社と「サステナブル経営支援ファイナンス」 【目標選択型】の契約を締結しました

北洋銀行(取締役頭取 津山 博恒)は、お客さまのサステナブル経営を支援しています。

今般、2026 年 5 月に、下記の通り、お客さま 22 社と「サステナブル経営支援ファイナンス」【目標選択型】の契約を締結しました。本ファイナンスは、持続可能な経営の実践に向け、北海道の SDGs 推進ビジョン等に整合した目標設定と、社会価値創出のストーリー発信をサポートするご融資です。

近年、社会的にサステナビリティへの取り組みに対する関心が高まっており、企業イメージの向上や新たな事業機会の創出につながることから、多くの企業がサステナブルな事業活動を推進しています。

当行は今後も、ほくようサステナブルファイナンス等を通じ、北海道を営業基盤とする金融機関として環境・社会問題に前向きに取り組むお客さまを支援してまいります。

記

サステナブル経営支援ファイナンス【目標選択型】ご契約企業の概要(五十音順)

会 社 名	株式会社 I K R E I S
代 表 者	代表取締役 岩崎 正和
所 在 地	北海道札幌市手稲区前田 1 1 条 1 0 丁目 2 - 4

会 社 名	株式会社アムテック
代 表 者	代表取締役 島田 清光
所 在 地	北海道札幌市北区新琴似町 1 0 1 0 - 1 0

会 社 名	株式会社 N N T グローバル
代 表 者	代表取締役 中村 巧
所 在 地	北海道札幌市手稲区稲穂 1 条 2 丁目 2 番 1 7 号

会 社 名	加藤建設株式会社
代 表 者	代表取締役 加藤 芳彦
所 在 地	北海道札幌市手稲区西宮の沢 6 条 1 丁目 1 2 - 1 2

《北洋銀行グループ サステナビリティ方針》

北洋銀行グループは「経営理念」と「行動規範」に基づく企業活動を通じて、当行グループを支えていただいている全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、当行グループの中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めます。

2026 年 6 月 15 日

サステナブル経営支援ファイナンス【目標選択型】ご契約企業の概要(五十音順)

会 社 名	有限会社賀張宝寄山育成牧場
代 表 者	代表取締役 宝寄山 拓樹
所 在 地	北海道沙流郡日高町賀張 2 9 7 - 1 2

会 社 名	株式会社亀岡塗装
代 表 者	代表取締役 池田 大
所 在 地	北海道札幌市北区屯田 7 条 5 丁目 3 - 1 9

会 社 名	北見調熱株式会社
代 表 者	代表取締役 寺島 武
所 在 地	北海道北見市美山町東 4 丁目 8 2 番地 4 8

会 社 名	株式会社コンフォート
代 表 者	代表取締役 佐々木 哲平
所 在 地	北海道留萌市錦町 1 丁目 4 - 8

会 社 名	五水工業株式会社
代 表 者	代表取締役 松浦 祐介
所 在 地	北海道江別市東光町 1 番地 7

会 社 名	株式会社CMC
代 表 者	代表取締役 千葉 浩
所 在 地	北海道札幌市中央区大通西 5 丁目 1 番地 2

会 社 名	合同会社CYD
代 表 者	代表取締役 坂井 志伊麻
所 在 地	北海道札幌市清田区清田 2 条 1 丁目 1 6 - 2 0

会 社 名	清水開発工業株式会社
代 表 者	代表取締役 佐藤 伊久磨
所 在 地	北海道上川郡清水町清水 7 2 8 番地 1

《北洋銀行グループ サステナビリティ方針》

北洋銀行グループは「経営理念」と「行動規範」に基づく企業活動を通じて、当行グループを支えていただいている全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、当行グループの中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めます。

2026年6月15日

サステナブル経営支援ファイナンス【目標選択型】ご契約企業の概要(五十音順)

会 社 名	株式会社スマイリード
代 表 者	代表取締役 常盤 和歩
所 在 地	北海道札幌市中央区南7条西2丁目2番地10 パラスト中島公園102号

会 社 名	有限会社鈴木建機
代 表 者	代表取締役 鈴木 秋光
所 在 地	北海道江別市あけぼの町26番地4

会 社 名	株式会社大東建業
代 表 者	代表取締役 廣中 好晴
所 在 地	北海道勇払郡安平町早来大町118-2

会 社 名	株式会社T. COMMERCE
代 表 者	代表取締役 高野 考一
所 在 地	北海道札幌市手稲区富丘1条5丁目2番14号

会 社 名	株式会社ティーワーク
代 表 者	代表取締役 坂田 毅
所 在 地	北海道小樽市銭函3丁目505番地7

会 社 名	株式会社NAMB A
代 表 者	代表取締役 難波 みなみ
所 在 地	北海道札幌市西区平和3条6丁目4番1号

会 社 名	有限会社浜頓別エバーグリーン
代 表 者	代表取締役 杉本 義典
所 在 地	北海道枝幸郡浜頓別町頓別原野876番地3

会 社 名	株式会社ビリーブ
代 表 者	代表取締役 佐伯 雅勝
所 在 地	北海道札幌市白石区菊水元町9条1丁目1番30号

《北洋銀行グループ サステナビリティ方針》

北洋銀行グループは「経営理念」と「行動規範」に基づく企業活動を通じて、当行グループを支えていただいている全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、当行グループの中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めます。

2026 年 6 月 15 日

サステナブル経営支援ファイナンス【目標選択型】ご契約企業の概要(五十音順)

会 社 名	有限会社丸八翔栄
代 表 者	代表取締役 森 翔吾
所 在 地	北海道札幌市北区新琴似 2 条 5 丁目 1 - 1 0

会 社 名	村本空設工業株式会社
代 表 者	代表取締役 村本 浩平
所 在 地	北海道札幌市北区新琴似 7 条 5 丁目 4 - 2 6 1 階

以 上

《北洋銀行グループ サステナビリティ方針》

北洋銀行グループは「経営理念」と「行動規範」に基づく企業活動を通じて、当行グループを支えていただいている全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、当行グループの中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めます。

株式会社I KREIS

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

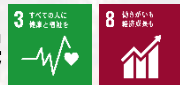
1

脱炭素社会実現への貢献



2

ワークライフバランスの充実



目標・KPIs

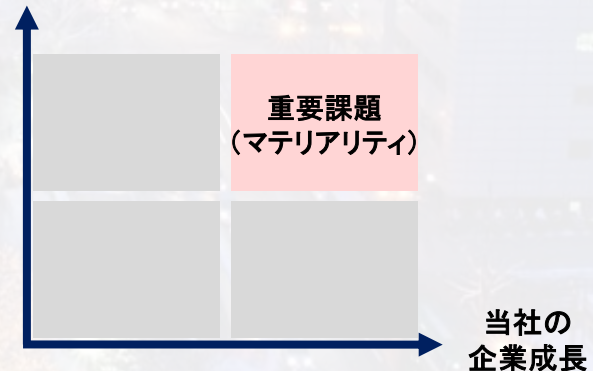
温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

正社員の年間総労働時間を1,923時間以下にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社 アムテック
サステナブル経営支援ローン
評価レポート

評価日: 2026 年 5 月 29 日

株式会社北洋銀行
北二十四条支店

1. 基本情報

企 業 名	株式会社アムテック	
代 表 者 名	島田 清光	
所 在 地	北海道札幌市北区新琴似町 1010-10	
資 本 金	1,000 万円	
従 業 員	9 名 (2026 年 5 月現在)	
業 種	配管工事業	
事 業 内 容	冷暖房設備工事、給排水設備工事、衛生設備工事、架台製作取付、パイプネジ加工、パイプ溶接加工、ルーズフランジ式フレア管製作・施工	
沿 革	2011 年 4 月	島田 清光氏が個人創業し、冷暖房・給排水・衛生設備の配管施工業を開始
	2014 年 4 月	株式会社アムテックを設立し、代表取締役任に島田 清光氏が就任 札幌市北区屯田 9 条 10 丁目 3 番 2-1 号に本社を構える
	2018 年 2 月	札幌市西区平和 3 条 10 丁目 5 番へ本社を移転
	2021 年 4 月	資本金を 1,000 万円に増資
	2021 年 5 月	札幌市北区新琴似町 1010-10 へ本社を移転

2. 経営理念

経営理念

全てのお客様へ誠実なご提案と製品を

当社は、「全てのお客様へ誠実なご提案と製品を」を経営理念に掲げ、その実践のために以下の3つを大切にしている。

■ 職人の「歓喜」を、お客様の「安心」へ

「職人が仲良く楽しく、技術を存分に発揮できる場」を掲げている。ここでの「楽しさ」とは、困難な現場であっても仲間と知恵を絞り、最高の技術でお客様の課題を解決することにある。その達成感と、お客様からの「ありがとう」の言葉こそが、原動力である。

■ 「家族」のような絆で、信頼を築く

共に切磋琢磨する仲間は、互いを支え合う家族のような存在。この大切な家族が前向きに挑戦し続けられるのは、会社を信頼してくださるお客様のおかげに他ならない。その感謝を、一切の妥協を許さない誠実な施工と、嘘のない提案に込める。

■ 継続的な技術の向上

水という生活の根幹を支える責任を胸に、「現状維持は後退」と心得ている。一歩ずつでも確実に成長し、技術を磨き続ける。「アムテックに任せれば大丈夫」という絶対的な信頼を得て、関わるすべての人をハッピーにする。そして地域社会に貢献する企業を目指し、すべての現場で誠実を貫き通す。

■ 配管加工の様子



■ 社屋の写真



出所: ㈱アムテック 提供資料

3. 事業概要

当社は、主に大型施設の配管工事をメインに行っており、配管の製作・取付までを自社で一貫して担う「トータルエンジニアリング」を実施。再開発が加速する札幌・すすきのエリアや大通の大型施設を数多く手がけ、年間で200トンを超える配管を組み上げる施工実績は、業界内でも上位に位置する。

当社の最大の強みは、一級配管技能士を有する多数の専門人材による、「高度な現場対応力」である。施工現場においては、設計図面と現況に乖離が生じる事態も少なくないが、当社は豊富な実務経験に基づき、迅速かつ的確な状況判断を実施。寸法との相違に対しても、すぐに修正対応を行う体制を整えており、この臨機応変な解決能力が、当社の信頼の証となっている。

さらに2024年11月には新社屋を竣工し、同時に道内でも導入例が極めて少ない最新鋭の加工機械を導入。積極的な設備投資を通じて労働環境の整備と顧客への付加価値向上を両立させ、事業の継続性と収益性を高めることで、次世代型配管工事業のモデルケースを構築している。

【主な事業内容】

■冷暖房設備工事

工場、物流倉庫、オフィス、医療施設、教育施設、共同住宅等、あらゆる産業用空調設備の配管工事を実施する。画一的な施工にとどまらず、現場の構造や空調性能を事前に精緻に検証した上で、管材の長さ・形状・材質を最適化する設計能力を有している。

空調配管は、空間環境の維持に直結する設備の中枢を担う重要部材である。長年の実績により蓄積された知見と技能を基盤とし、顧客ニーズおよび建物特性に合致した高効率な配管システムを構築。確かな施工品質を通じて、建物の機能性維持と資産価値の向上に寄与する。

■給排水設備工事

産業施設および公共施設を対象とした給排水管工事を主軸とし、技術革新の著しい水回り設備に即応した給排水システムを供給する。

近年主流である節水型機器においては、低流量での搬送能力、防臭・遮音性能、保守省力化など、高度な排水設計能力が不可欠となる。また、意匠性を重視した配管遮蔽構造の増加に伴い、施工には極めて高い精度が要求されるが、当社は経年劣化による漏水リスクを排除する確実な施工品質を有している。

最新の設備トレンドを捉えた技術対応力と、誠実な施工管理体制により、顧客が求める高水準なインフラ環境の実現に寄与する。

■配管の写真



■配管施工の様子



出所: (株)アムテック 提供資料

■衛生設備工事

住宅・業務用を問わず、厨房、浴室、洗面、トイレ等の衛生設備に伴う配管工事を遂行する。空間の規模、想定利用人数、導入機器の特性といった諸条件を精緻に分析し、効率的かつ合理的な配管システムを構築する。

衛生設備は長期使用が前提となるため、不可視部分である配管の経年劣化が看過されやすいという課題がある。これに対し、当社はプロフェッショナルな視点による点検・診断体制を整備。潜在的な不具合を早期に発見し、中長期的な修繕コストの最適化と事故未然防止に向けたソリューションを提示する。

■架台製作・取付

配管およびダクトの支持に不可欠な架台の製作・据付を担う。H 形鋼、等辺山形鋼（アングル）、鋼管（丸パイプ）等の各種鋼材を用い、現場の空間制約や支持対象物の荷重、仕様に合致した製品を個別に設計・製造する体制を構築している。

徹底した工程管理により、高品質・短納期・コスト適正化を同時に実現。新規設置のみならず、経年劣化に伴う既存架台の修繕や更新工事にも柔軟に対応し、設備全体の安全性維持と長期稼働を担保する。

4. サステナビリティへの取組み

当社のサステナビリティ経営は、単なる社会貢献ではなく、会社の成長と社会への貢献を両立させるための戦略であり、具体的には、以下の3つの側面(ESG)を同時に達成することを目指している。

(1) 環境面

配管資材価格の高騰は、販管費および一般管理費を直接的に圧迫するリスク要因であり、資材ロス(端材)を極限まで抑制し、資源の有効活用を図ることは、環境負荷の低減と同時に売上原価の改善・営業利益率の向上に直結する。

当社では、昨年導入したカットオフマシンにより端材発生率を最小化。資源ロスを抑制し、資材調達コストの最適化を図っている。また工事の中で発生した端材を「廃棄物」ではなく「循環資産」とし、パイプシェーバーを用いた高精度な管端加工により、端材の100%再利用を目指している。集中加工(プレハブ化)による現場コストの最適化・自社加工場での事前加工を徹底し、施工現場における産業廃棄物排出量を「実質ゼロ」とすることで、廃棄物処理費用を削減し、収益構造の安定化を図っている。

■パイプシェーバーを拡大したもの



■パイプシェーバーの機械



出所: (株)アムテック 提供資料

(2) 社会面

労働力不足が深刻な北海道において、人材の確保・育成は事業継続上の重要な課題である。

当社の代表取締役である島田氏は、「北海道配管事業協同組合青年部」の会長を務める中、配管工事業は他業種に比べ認知度が低く、若年層のなり手が少ない現状を打破するため、業界全体の魅力を伝える様々な活動を主導している。その一環として、道内の中高生を対象とした工場見学やインターンシップを積極的に実施し、仕事の魅力を直接伝えることで若者の興味を喚起し、次世代技術者の確保と確実な技術継承を目指している。また、人材育成に関しては、通常3年程度を要する技術習得を短縮する独自の「早期育成システム」を構築。教育の標準化を進めた結果、新入社員の定着率は98%という極めて高い水準で推移しており、深刻化する労働力不足の中でも、地域インフラを長期にわたり維持・管理できる経営基盤を構築している。

その他にも、小学校への寄付や出前授業、技術フェスティバルの主催に加え、道内での植樹・森林保全活動等にも参加しており、業務だけでなく日々地域社会・住民との信頼関係構築し、企業価値の向上に努めている。

■中・高生向けのインターンシップの様子



■社員交流会の様子



出所: (株)アムテック 提供資料

(3) 経済面

当社は地方における技術情報の格差を解消し、地域インフラを支える責務を果たすべく、環境変化に強い組織づくりを推進している。首都圏等の先進事例を積極的に取り入れ、最新鋭の設備導入を導入することで、道内における優位性の高い施工体制を確立。さらに、島田氏が会長を務める北海道配管工事業協同組合青年部を通じて、最新情報を道内企業へ共有し、業界全体の技術水準の向上を主導している。

また、安全管理面においても、2012年の創業以来、無災害記録を継続しており、定期的な安全講習会の実施により現場の安全性を徹底している。

【作業中の様子】



出所:㈱アムテック 提供資料

5. サステナビリティ目標

当社の更なる企業価値の向上と、持続可能な開発の実現にむけた社会課題を踏まえ、以下のサステナビリティ目標を設定した。この目標は、当社の事業エリアである北海道が持続的に発展し、魅力ある地域を創り上げていくために策定した「北海道総合計画(2024)」などを参照し、設定したものである。目標達成への企業行動を通じて、当社のプレゼンス向上と地域社会が目指す姿の実現に貢献するものであり、目標は有意義である。

(1) 環境面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	脱炭素社会実現への貢献
目 標 ・ K P I	温室効果ガス排出量の可視化を実現する。
関連する SDGs	 

(2) 社会面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	人的資本経営の推進
目 標 ・ K P I	従業員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。
関連する SDGs	

留意事項

本文書は、北洋銀行が借入人に対して実施する「サステナブル経営支援ローン」に際し、借入人の企業経営とサステナビリティ目標に対する北洋銀行の評価を述べたものです。

本文書に記載された情報は、現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

北洋銀行は当文書のあらゆる使用に起因して発生する全ての直接的、間接的損失や派生的損害については、一切義務または責任を負わないものとします。

本評価書に関する一切の権利は北洋銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。

株式会社アムテック

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

目標・KPIs

1

脱炭素社会実現への貢献



温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

人的資本経営の推進

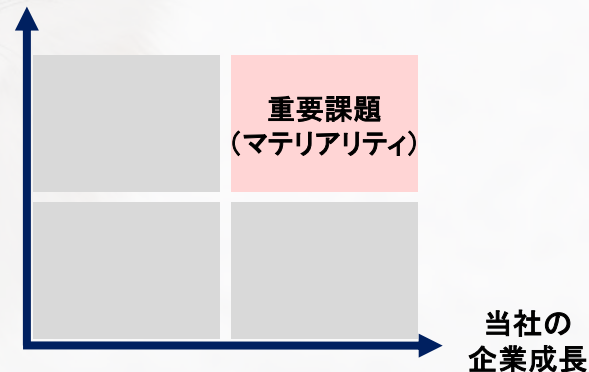


役職員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社NNTグローバル

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

1

脱炭素社会実現への貢献



目標・KPIs

温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

人的資本経営の推進

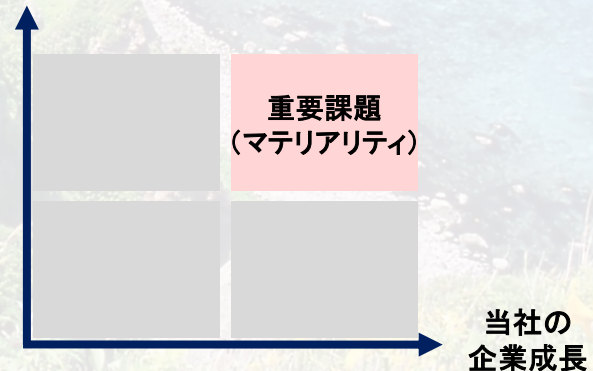


役職員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



加藤建設 株式会社 サステナブル経営支援ローン 評価レポート

評価日: 2026 年 5 月 29 日

株式会社北洋銀行
琴似中央支店

1. 基本情報

企 業 名	加藤建設 株式会社	
代 表 者 名	代表取締役 加藤芳彦	
所 在 地	札幌市手稲区西宮の沢 6 条 1 丁目 12 番 12 号	
資 本 金	1,000 万円	
従 業 員	21 名 (2026 年 4 月現在)	
業 種	建設業	
許 認 可	■ 建設業許可 北海道知事(般-3)石狩第 10846 号 ■ 一級建築士事務所 北海道知事登録(石狩)第 2523 号 ■ 宅地建物取引業者登録 北海道知事登録石狩(9)第 4527 号 ■ 登録電気工事業者(石狩)第 2021126 号	
事 業 内 容	■ 建設部門 (福祉・医療施設・商業施設・住宅施設・教育施設の設計・施工・管理等) ■ 電設・情報化部門 (電気設備・機械設備の保守等) ■ 不動産部門 (不動産販売及び仲介等) ■ リフォーム部門 (各種施設のリフォーム) ■ コンサルティング部門 (福祉・医療施設の設立・運営コンサルタント等)	
沿 革	1922 年	札幌市中央区南 7 条西 9 丁目にて加藤芳太郎が加藤組を個人創業
	1953 年	株式会社加藤建設 設立
	1977 年	加藤芳太郎の長男 加藤芳弥が代表取締役に就任
	1987 年	加藤芳弥の長男 加藤芳彦(現社長)が代表取締役に就任
		商号を加藤建設株式会社へ変更
	1994 年	資本金を 1000 万円に増資
	1999 年	札幌市都市局「建築優秀施工業者賞」受賞
	2002 年	工事部・工作センターの新社屋完成
		札幌市手稲区西宮の沢 6 条 1 丁目 12 番 12 号に移転(現事務所)
	2005 年	札幌市建築業組合に所属 若年技能社員養成開始
	2010 年	「札幌市優良工場等表彰」受賞
	2011 年	代表取締役 加藤芳彦 札幌高等技術専門校 副校長に就任
	2017 年	「札幌地方職業能力開発協会 会長表彰」受賞
	2021 年	本社リニューアル工事完成
	2022 年	創業 100 周年を迎える
		新潟県佐渡市にて 100 周年記念社員旅行開催

2. 企業理念

企業理念

100 年の実績と伝統を基盤として 既存概念にとらわれない発想、的確な技術と技能
熱い誠意とたゆまぬ努力により お客様の望むものを望む時に創り上げる。

加藤建設は、上記の企業理念を掲げ、1922 年の創業以来、一世紀にわたり「お客様の望むものを、お客様の望むときに創り上げる」をモットーに建設事業を展開している。

長年にわたり培ってきた実績と信頼を基盤に、既存概念にとらわれない柔軟な発想と確かな技術力・施工力を活かし、多様化する顧客ニーズに迅速かつ的確に対応している。

また、安全管理および品質確保を徹底し、誠意ある施工とたゆまぬ努力を重ねることで、地域社会の発展や快適な社会基盤づくりに貢献している。

今後も次の 100 年を見据え、顧客の期待に誠心誠意応え続ける企業を目指していく方針にある。

3. 事業概要

加藤建設は、札幌市に本社を置く建設事業者である。一世紀以上にわたり建設分野に携わってきた実績を有し、医療・福祉・保育施設の新築・改修・維持管理を主軸とした事業を展開している。

元請総合建設業でありながら、多能工かつ正社員による施工チームを有し、企画・設計から施工、維持管理までを一貫して対応できる体制を強みとして、建築に関するあらゆるニーズにワンストップで応える経営基盤を構築している。

＜施工実績＞

➤ 医療・福祉施設



➤ 一般住宅・事務所



【出所：加藤建設 提供資料】

4. サステナビリティ活動

① 環境面

■ 事業活動上の環境負荷低減

当社は、事業活動における環境負荷低減に向けて、廃棄物の適正管理やリサイクルの推進、社内照明のLED化などに取り組んでいる。

また、2025年11月にはCO2排出量算定のための専用ツールを導入しており、CO2排出量の可視化を通じて、更なる排出量の削減に努めていく方針にある。

② 社会面

■ 人材育成

当社は、人材育成を重要な経営課題の一つと位置付け、独自の訓練生制度を設けている。新入社員については、授業料を全額会社負担とし入社後1年間(中卒は3年間)、当社社長が副校長を務める札幌高等技術専門校に通学しながら、各種資格の取得を進める体制を整備している。学科講習と実際の現場における実技訓練を反復して行うことで、基礎知識と実務能力の双方を体系的に習得し、技術力の向上を図っている。また、学生から社会人への移行期に一定の助走期間を設けることで、早期の現場適応を促し、基礎技術の確実な定着と即戦力人材の育成につなげている。

資格取得支援については、年に一度、社長が全社員と個別面談を実施し、本人の意向やキャリア形成を踏まえながら、その年に挑戦する資格を決定している。受験料や講習料、旅費等については、いずれも会社が全額負担しており、社員一人ひとりが高い目標意識を持ちながら成長を実感できる環境づくりに取り組んでいる。

今後も、経営において最も重要な要素は「人材」であるとの考えのもと、「人を育てる会社」を目指し、社員のスキルアップ支援に継続的に注力していく方針にある。

【主要資格・免許保有者】

資格名	人数	資格名	人数
一級建築士	2名	一級大工技能士	6名
二級建築士	3名	二級大工技能士	11名
一級建築施工管理技士	4名	一級型枠技能士	2名
二級建築施工管理技士	8名	二級型枠技能士	3名
二級土木施工管理技士	1名	一級内装技能士	1名
二級管工事施工管理技士	2名	二級内装技能士	1名
二級電気施工管理技士	1名	第一種電気工事士	1名
職業訓練指導員(建築)	8名	第二種電気工事士	7名

【出所:加藤建設へのヒアリングにより北洋銀行作成】

■ 女性活躍の推進

当社は、女性技能者の育成に積極的に取り組んでおり、多様な人材が活躍できる職場環境づくりに努めている。現在役員を含む技術技能者は 20 名であり、うち 4 名が女性。職業訓練指導員の資格を有する女性技能者も在籍している。

また、女性特有の体調変化にも配慮し、生理休暇を有給休暇へ振り替えできる制度を導入しており、年間 6 日間まで取得可能としている。

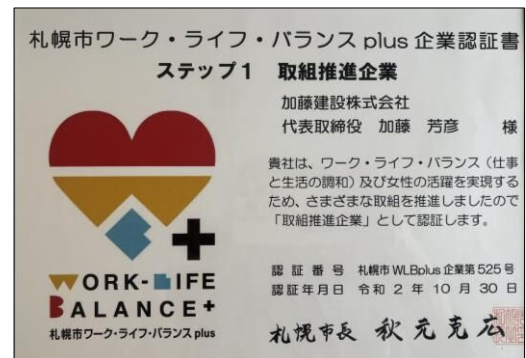
今後も女性が安心して長く働ける職場環境づくりに努め、さらなる女性活躍の推進を図っていく方針にある。

■ ワークライフバランス

当社は、年末年始やお盆・ゴールデンウィークなどの連続休暇の取得促進に取り組んでいるほか、業務の効率化や適切な工程管理の徹底により残業時間ゼロを実現している。

また、札幌市が実施する「札幌市ワーク・ライフ・バランス plus 企業認証」の取組推進企業として認証を受けており、働きやすい職場環境づくりと多様な働き方の推進に取り組んでいる。

今後は有給休暇取得率の更なる向上を目指し、従業員がより働きやすい職場環境の整備に努めていく方針にある。



【出所：加藤建設 提供資料】

■ 福利厚生の充実

当社は、福利厚生の充実にも積極的に取り組んでおり、借り上げ社宅制度や車両レンタル制度、ガソリンカードの支給などを通じて、日常生活や通勤に関する従業員の負担軽減を図っている。

また、事務所内に社内コンビニを導入し、従業員が自由に利用できる環境を整備することで、日々働きやすさを実感できる職場づくりに取り組んでいる。

さらに、社員間の交流やコミュニケーションの活性化を目的とした社員旅行を毎年の恒例行事として開催し、チームビルディングを図っている。

＜社内コンビニの様子＞



＜社員旅行の様子＞



【出所：加藤建設 提供資料】

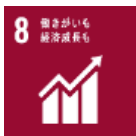
5. サステナビリティ目標

加藤建設の更なる企業価値の向上と、持続可能な開発の実現にむけた社会課題を踏まえ、以下のサステナビリティ目標を設定した。この目標は、加藤建設の事業エリアである北海道が持続的に発展し、魅力ある地域を創り上げていくために策定した「北海道総合計画(2024)」などを参照し、設定したものである。目標達成への企業行動を通じて、加藤建設のプレゼンス向上と地域社会が目指す姿の実現に貢献するものであり、目標は有意義である。

(1) 環境面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	脱炭素社会実現への貢献
目 標 ・ K P I	① 温室効果ガス排出量の可視化を実施する。
関連する SDGs	 

(2) 社会面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	ワークライフバランスの充実
目 標 ・ K P I	① 有給休暇取得率を 70%以上にする。
関連する SDGs	 

留意事項

本文書は、北洋銀行が借入人に対して実施する「サステナブル経営支援ローン」に際し、借入人の企業経営とサステナビリティ目標に対する北洋銀行の評価を述べたものです。

本文書に記載された情報は、現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

北洋銀行は当文書のあらゆる使用に起因して発生する全ての直接的、間接的損失や派生的損害については、一切義務または責任を負わないものとします。

本評価書に関する一切の権利は北洋銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。

加藤建設株式会社

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

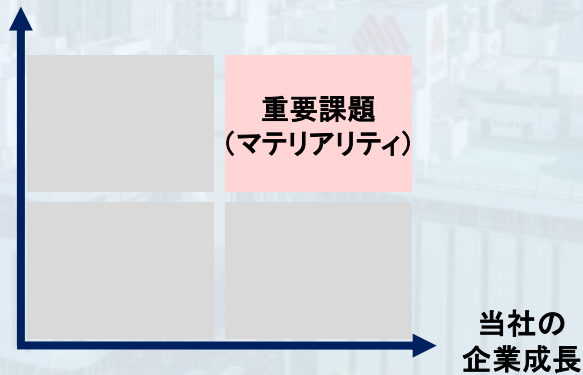
目標・KPIs

1	脱炭素社会実現への貢献	 	温室効果ガス排出量の可視化を実施する。
2	ワークライフバランスの充実	 	有給休暇取得率を70%以上にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



有限会社賀張宝寄山育成牧場

Sustainability Commitment

2026年4月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

1

脱炭素社会実現への貢献



目標・KPIs

温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

ワークライフバランスの充実

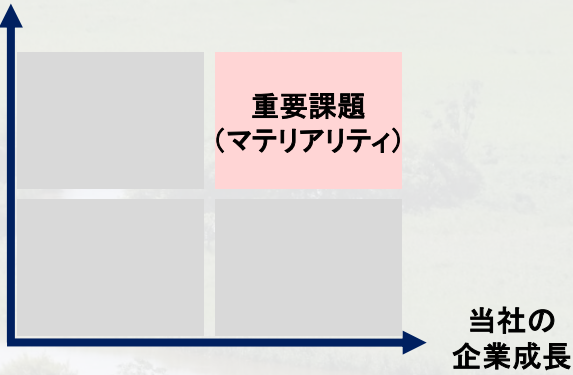


有給休暇取得率を70%以上にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社亀岡塗装
サステナブル経営支援ローン
評価レポート

評価日: 2026 年 5 月 22 日

株式会社北洋銀行
麻生支店

1. 基本情報

企 業 名	株式会社亀岡塗装	
代 表 者 名	池田 大	
所 在 地	・ 事務所 北海道札幌市北区屯田 7 条 5 丁目 3-19	
資 本 金	100 万円	
従 業 員	3 名 (2026 年 4 月現在)	
業 種	塗装工事業	
事 業 内 容	・ 建築塗装 (住宅、アパート、学校、倉庫など) ・ 鉄骨塗装 (工場、倉庫など)	
沿 革	1954 年 2025 年	亀岡達男氏が当社の前身となる株式会社丸亀亀岡塗装を設立 株式会社丸亀亀岡塗装が廃業を表明 池田大氏が株式会社亀岡塗装を設立

2. 経営理念・経営方針

経営理念

「私たちは、受け継いだ仕事と技術を守り育て、従業員と地域の未来を支える企業であり続けます。」

経営方針

(1)「受け継いだ職人技術と信頼関係を、何よりも大切に」

㈱丸亀岡塗装から受け継いだ職人の技術や仕事の姿勢、長年の取引の中で築かれてきたお客様・取引先との信頼関係を、経営の土台として大切にしています。創業時からのご縁を尊重し、約束を守る誠実な対応を積み重ねることで、その信頼を次の世代へ繋いでいきます。

(2)「確かな技術と品質の追求」

吹き付け塗装をはじめとする技術力を磨き続け、洗浄・下地補修・養生・塗装・点検の一つ一つの工程にこだわり、長く安心していただける高品質な施工を提供します。

(3)「目先の利益よりも、本当に必要な工事を」

過剰な塗り替えや不要な工事を勧めるのではなく、建物の状態やお客様のご要望を踏まえた「本当に必要な工事」の提案を徹底しています。現地調査の内容や写真を用いて、工事内容と費用の理由を丁寧に説明し、ご納得いただける最適な提案を通じて信頼にお応えします。

(4)「働く仲間と家族を守り、地域の産業と雇用を守る」

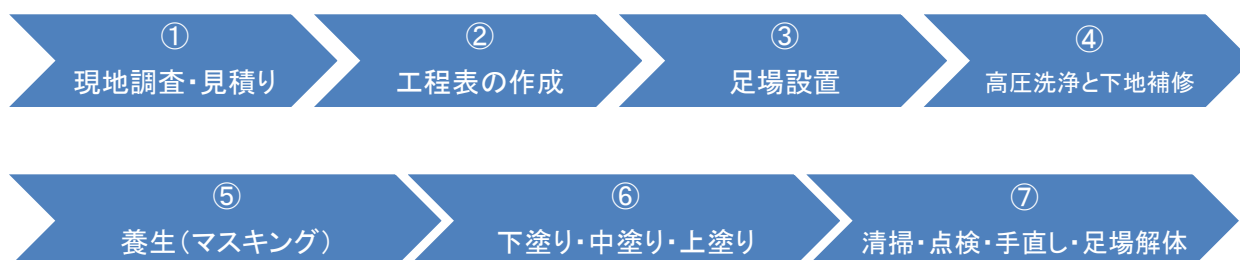
従業員や一人親方、外注先をかけがえのない仲間と捉え、安定した雇用と働きやすい環境づくりに取り組みます。技術指導や独立支援も通じて、次世代へ技術と仕事を繋いでいきます。

3. 事業概要

当社は札幌市を拠点とする塗装工事業者であり、戸建住宅・アパート・マンション・店舗など、地域のさまざまな建物を対象に外壁・屋根・内部の塗装工事を行っている。北海道特有の気候や凍結・融解の影響を踏まえ、建物を「守る」ことを第一に考えた塗装で、暮らしと資産の長寿命化に貢献している。

当社が対応している主な塗装工事の種類は、外壁塗装、屋根塗装、内部塗装（天井・壁・木部 など）、吹き付け塗装である。建物の用途や既存仕上げ、周辺環境に合わせて塗料や工法を選定し、見た目の美しさだけでなく、耐久性も重視した施工をしている。

塗装工事の業務フローは、一般的に以下のとおりである。



当社が特に重視しているのは、高圧洗浄と下地補修であり、汚れやチョーキングをしっかりと落とし、爆裂部を削ってモルタルやパテで平滑に補修することで、その後の塗料の密着性と耐久性が大きく変わる。こうした「最終的には見えなくなる部分」に時間と手間をかけることが、塗装を長持ちさせるための最も重要なポイントであると位置づけ、日々の現場において徹底している。

■ 洗浄の工程写真



■ 塗装の工程写真



出所：㈱亀岡塗装 提供資料

【当社の強み(吹き付け塗装・技術と信頼)】

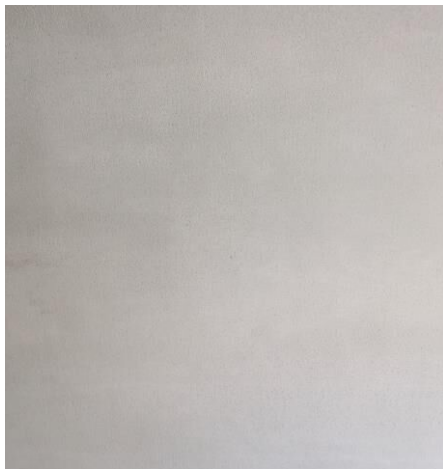
当社の大きな強みは吹き付け塗装の技術力と、前身である㈱丸亀岡塗装から受け継いだ職人技術と長年の信頼関係にある。主要取引先である大手ハウスメーカーをはじめ、多くの吹き付け塗装を長年にわたり任されており、その安定した品質と仕上がりが高く評価されている。

吹き付け塗装では、①洗浄・補修・養生、②プライマーによる下塗り(密着性の確保)、③水や骨材を混ぜた吹き付け用塗料の作成、④エアースプレー量を調整しながらの吹き付け作業、といった工程を踏む。なかでも「水や骨材の微妙な配合比率」や、「気温・湿度・下地状況に応じたエアースプレー量や吹き付け方」の調整によって、模様の出方や仕上がりの均一さが大きく変わる点に、経験と技術の差が最も表れる。

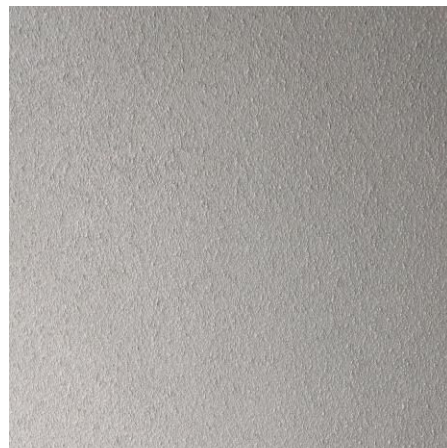
当社では、これまでの豊富な現場経験をもとに、ムラの少ない美しいパターンと、ひび割れや剥がれが起きにくい長寿命な仕上がりを実現している。また、長年付き合いのある取引先・外注先との強固なネットワークにより、安定した施工体制と品質のばらつきの少ない工事が可能となっている。

受け継いだ技術と信頼関係、そして吹き付け塗装の専門性を活かし、当社は今後も札幌市および近郊エリアの建物と暮らしを長く支えていく方針である。

■ Before



After



※「吹き付け塗装の Before／After 写真」

Before「色あせ・ひび割れが目立つ外壁写真」、After「仕上がりの写真」

出所:㈱丸亀岡塗装 提供資料

4. サステナビリティ活動

(1) 環境面での取り組み:お客様への最適な提案による塗装回数や無駄な工事の削減

当社は、目先の工事量を増やすのではなく、顧客の建物の状態や将来の計画に合わせた「最適な提案」を行うことで、過剰な塗装回数や不要な工事を抑えるよう努めている。必要以上に塗り替えを繰り返さないことは、塗料や足場などの資材使用量の削減につながり、結果として環境負荷の低減にも寄与している。

現地調査の結果や写真をもとに、工事の「やるべきところ」と「まだやらなくてよいところ」を丁寧に説明し、無駄のない計画的なメンテナンスを提案している。建物を長く使用し続けるという視点から、環境にも配慮した塗装工事を心がけている点が特徴である。

(2) 社会面の取り組み:雇用・技術・取引を次世代へつなぐ

- 創業の背景と社会的使命

当社は、(株)丸亀岡塗装から技術と取引関係を引き継ぐ形で創業した。これまで地域の塗装工事を長年支えてきた丸亀岡塗装が、事業規模の縮小を検討した際、「この仕事を続けてほしい」、「技術と関係性を絶やしたくない」という従業員と取引先の強い声が上がったことを受け、雇用と取引を守ることが第一に、従業員を代表して現代表者である池田 大氏が新たに会社を設立した。

このような創業の背景そのものが、地域の雇用・技術・取引関係を持続させるという、当社の社会的使命に繋がっている。

- 雇用維持と技術継承への取り組み

当社は、雇用の維持と技術継承への想いを軸に、長年勤続する従業員や一人親方、外注先との安定したパートナーシップを大切に、世代を超えた技術継承と雇用の維持に努めている。働く人とその家族を守る仕組みづくりを進めるとともに、従業員が将来独立することも視野に入れた人材育成を行い、独立後も取引を継続することで、個人のキャリアと地域の仕事を両立させる体制づくりを進めている。

- 地域産業の継続性向上への貢献

当社は、単に塗装工事を請け負うだけでなく、「人・仕事・技術・取引」を次世代につなぐことを重視し、地域の塗装産業全体の継続性向上に貢献している。地域社会とともに持続的に発展していくことを目指し、今後も雇用・技術・取引を守り育てていく方針である。

5. サステナビリティ目標

株式会社亀岡塗装の更なる企業価値の向上と、持続可能な開発の実現にむけた社会課題を踏まえ、以下のサステナビリティ目標を設定した。この目標は、株式会社亀岡塗装の事業エリアである北海道が持続的に発展し、魅力ある地域を創り上げていくために策定した「北海道総合計画(2024)」などを参照し、設定したものである。目標達成への企業行動を通じて、株式会社亀岡塗装のプレゼンス向上と地域社会が目指す姿の実現に貢献するものであり、目標は有意義である。

(1) 環境面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	脱炭素社会実現への貢献
目 標 ・ K P I	温室効果ガス排出量の可視化を実施する。
関連する SDGs	 

(2) 社会面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	人的資本経営の推進
目 標 ・ K P I	役職員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。
関連する SDGs	

留意事項

本文書は、北洋銀行が借入人に対して実施する「サステナブル経営支援ローン」に際し、借入人の企業経営とサステナビリティ目標に対する北洋銀行の評価を述べたものです。

本文書に記載された情報は、現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

北洋銀行は当文書のあらゆる使用に起因して発生する全ての直接的、間接的損失や派生的損害については、一切義務または責任を負わないものとします。

本評価書に関する一切の権利は北洋銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。

株式会社亀岡塗装

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

1

脱炭素社会実現への貢献



目標・KPIs

温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

人的資本経営の推進

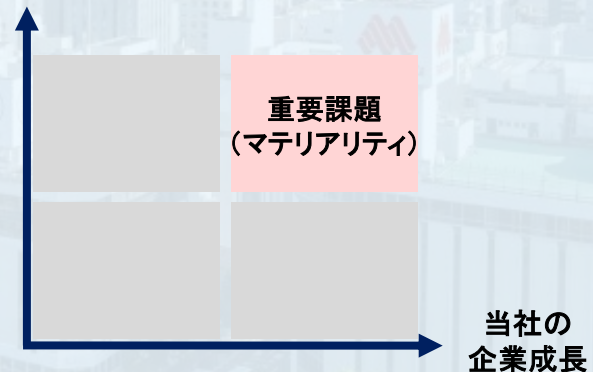


役職員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



北見調熱株式会社

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

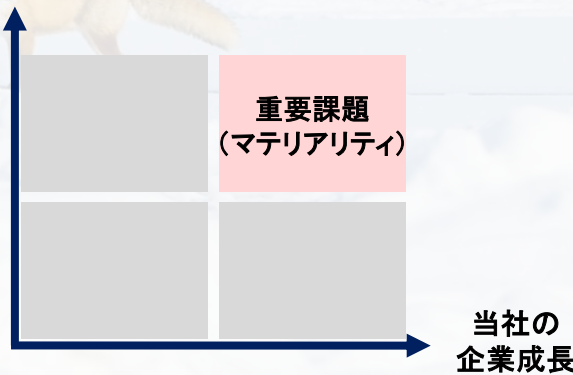
目標・KPIs

1	脱炭素社会実現への貢献	 	温室効果ガス排出量の可視化を実施する。
2	ワークライフバランスの充実	 	有給休暇取得率を70%以上にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社コンフォート

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

目標・KPIs

1

脱炭素社会実現への貢献



温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

ワークライフバランスの充実

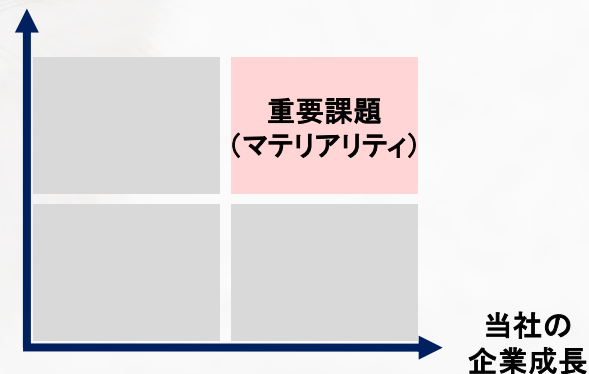


有給休暇取得率を70%以上にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



五水工業株式会社

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

1 脱炭素社会実現への貢献



2 人的資本経営の推進



目標・KPIs

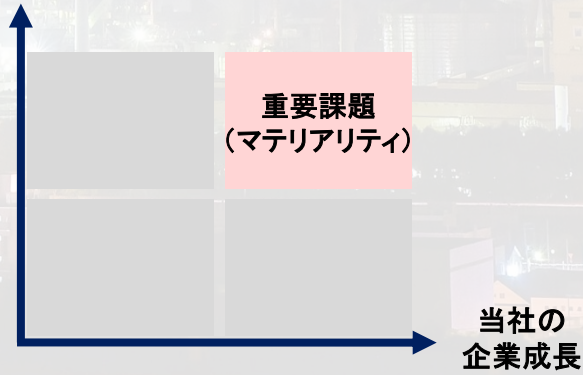
温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

役職員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社CMC

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

1

脱炭素社会実現への貢献



目標・KPIs

温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

ワークライフバランスの充実

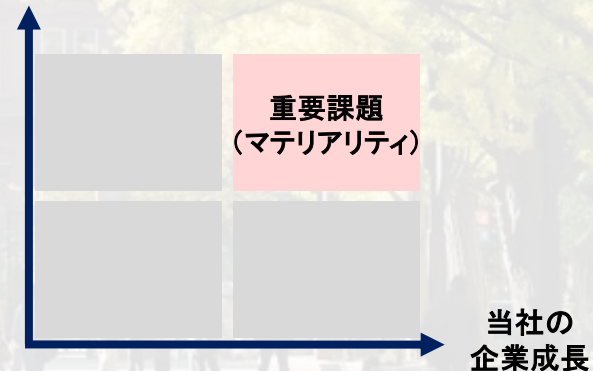


正社員の年間総労働時間を1,923時間以下にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



合同会社CYD

Sustainability Commitment

2026年5月

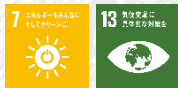
私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

目標・KPIs

1

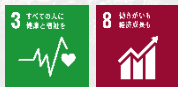
脱炭素社会実現への貢献



温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

ワークライフバランスの充実

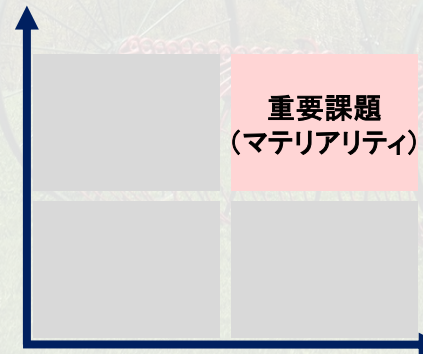


有給休暇取得率を70%以上にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



当社の
企業成長

清水開発工業株式会社

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

目標・KPIs

1

脱炭素社会実現への貢献



温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

ワークライフバランスの充実



正社員の年間総労働時間を1,923時間以下にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿

重要課題
(マテリアリティ)

当社の
企業成長

株式会社スマイリード

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

1

脱炭素社会実現への貢献



2

ワークライフバランスの充実



目標・KPIs

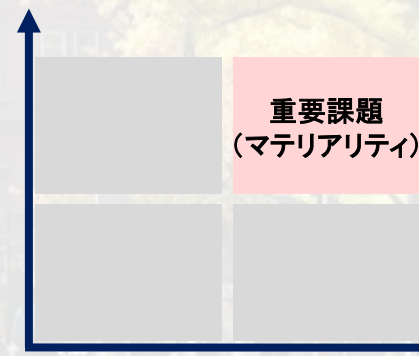
温室効果ガス排出量を2030年まで毎年2.7%以上削減する。

正社員の年間総労働時間を1,923時間以下にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



当社の
企業成長

有限会社鈴木建機

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

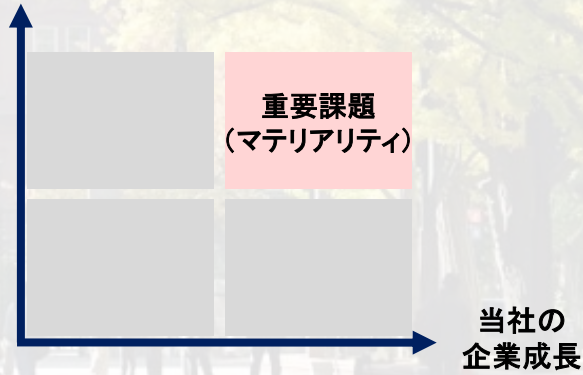
目標・KPIs

1	脱炭素社会実現への貢献	 	温室効果ガス排出量の可視化を実施する。
2	人的資本経営の推進		役職員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社大東建業 サステナブル経営支援ローン 評価レポート

評価日: 2026 年 5 月 15 日

株式会社北洋銀行
苫小牧中央支店

1. 基本情報

企 業 名	株式会社大東建業	
代 表 者 名	廣中 好晴	
所 在 地	・ 本社 北海道勇払郡安平町早来大町 118-2 ・ 東北営業所 宮城県大崎市古川飯川字熊野 39-1	
資 本 金	1,000 万円	
従 業 員	12 名 (2026 年 5 月現在)	
業 種	建設業	
事 業 内 容	道路安全設備工事 (立入防止柵、防護柵、防音壁・防雪柵設置工事)	
沿 革	1993 年 2006 年 2011 年	大東建業として個人創業 法人成り 東北営業所 営業開始

2. 経営理念

経営理念

社会環境の向上を目指し、「人々の暮らしをより快適に、より安全に」

株式会社大東建業は、高速道路をはじめとする道路安全設備工事を通じて、道路インフラの安全性向上に貢献している。具体的には、交通事故の抑止や走行環境の改善に寄与する立入防止策などの事業活動を通じて、ドライバーや歩行者を含むすべての人々が、より快適で安心して暮らせる社会の実現を目指している。

また、近年各地で熊の出没が相次いでいることを受け、熊に遭遇した際に人が一時的に避難し、身を守ることができる鳥獣柵の製作・設置にも取り組んでおり、安心して暮らせる社会の実現への貢献を目指している。

3. 事業概要

株式会社大東建業は、北海道勇払郡安平町早来大町に本社を構える建設業者である。創業以来、北海道安平町早来を拠点としながら、宮城県大崎市には東北営業所を置き、日本全国をフィールドとして事業を展開している。事業活動は、道路安全施設工事を中心に、柵・フェンスの施工、外構工事、各種リフォーム工事など、幅広い建設関連サービスを提供している。当社の強みである道路安全施設工事では、主に立入防止柵、防護柵（ガードレール等）、標識、電光掲示板、防音壁・遮音壁、防雪柵などの設置を全国各地の主要道路・高速道路で手掛けており、交通安全施設の整備を通じて、安全で快適な道路環境の実現に貢献している。周辺環境との調和や景観にも配慮した提案を行い、単なる機能設備にとどまらず、「景観づくり」の一翼を担っている点も大きな特徴である。

「日本全国が当社のフィールド」という姿勢のもと、本社と東北営業所の連携により広域案件にも柔軟に対応し、高速道路、主要道路、トンネル、高架橋といった高度な品質・安全基準が求められる現場での豊富な実績を背景に、スタッフ一同が迅速かつ確実な施工、安全性・技術力・作業性の継続的な向上、設備の充実に努めている。近年では、各地で熊の出没が相次ぎ、被害が拡大していることを受けて、熊と遭遇した際に人が一時的に避難し、身を守ることができる鳥獣柵の製作・設置を目指しており、当社が経営理念に掲げる「人々の暮らしをより快適に、より安全に」への一層の貢献を目指している。

■ 施工事例



出所：株式会社大東建業 提供資料

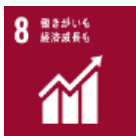
4. サステナビリティ目標

株式会社大東建業の更なる企業価値の向上と、持続可能な開発の実現にむけた社会課題を踏まえ、以下のサステナビリティ目標を設定した。この目標は、株式会社大東建業の事業エリアである北海道が持続的に発展し、魅力ある地域を創り上げていくために策定した「北海道総合計画(2024)」などを参照し、設定したものである。目標達成への企業行動を通じて、株式会社大東建業のプレゼンス向上と地域社会が目指す姿の実現に貢献するものであり、目標は有意義である。

(1) 環境面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	脱炭素社会実現への貢献
目 標 ・ K P I	温室効果ガス排出量の可視化を実施する。
関連する SDGs	 

(2) 社会面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	ワークライフバランスの充実
目 標 ・ K P I	正社員の年間総労働時間を 1,923 時間以下にする。
関連する SDGs	 

留意事項

本文書は、北洋銀行が借入人に対して実施する「サステナブル経営支援ローン」に際し、借入人の企業経営とサステナビリティ目標に対する北洋銀行の評価を述べたものです。

本文書に記載された情報は、現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

北洋銀行は当文書のあらゆる使用に起因して発生する全ての直接的、間接的損失や派生的損害については、一切義務または責任を負わないものとします。

本評価書に関する一切の権利は北洋銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。

株式会社大東建業

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

目標・KPIs

1

脱炭素社会実現への貢献



温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

ワークライフバランスの充実

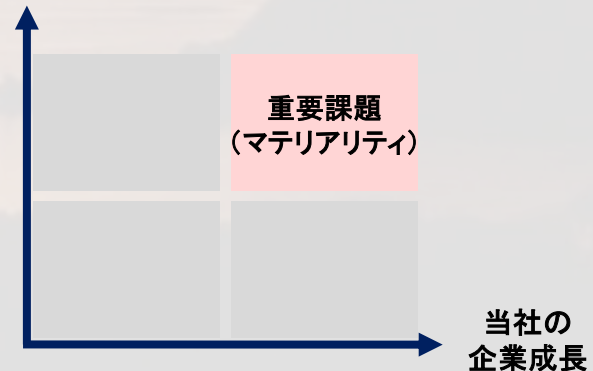


正社員の年間総労働時間を1,923時間以下にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社T. COMMERCE

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

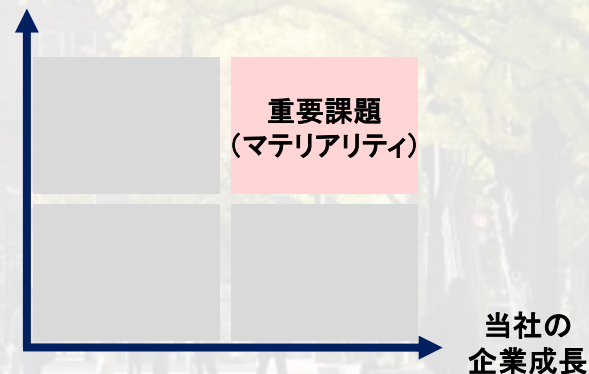
重要課題 (マテリアリティ)

- | | | | |
|---|-------------|---|--------------------------------------|
| 1 | 脱炭素社会実現への貢献 |   | 目標・KPIs
温室効果ガス排出量の可視化を実施する。 |
| 2 | 人的資本経営の推進 |   | 目標・KPIs
消費者物価指数を上回る賃金上昇を継続して実施する。 |

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社ティーワーク

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

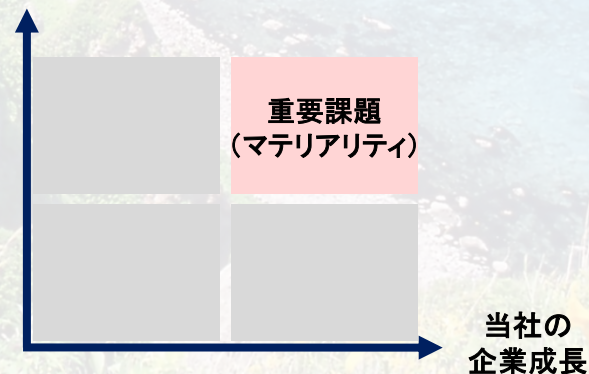
目標・KPIs

- | | | | |
|---|-------------|---|---------------------------|
| 1 | 脱炭素社会実現への貢献 |   | 温室効果ガス排出量の可視化を実施する。 |
| 2 | 人的資本経営の推進 |   | 消費者物価指数を上回る賃金上昇を継続して実施する。 |

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社NAMBA

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題（マテリアリティ）

1

脱炭素社会実現への貢献



目標・KPIs

温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

ワークライフバランスの充実

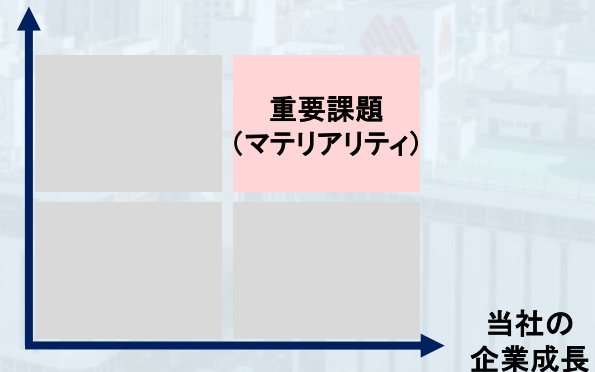


有給休暇取得率を70%以上にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



有限会社浜頓別エバーグリーン

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

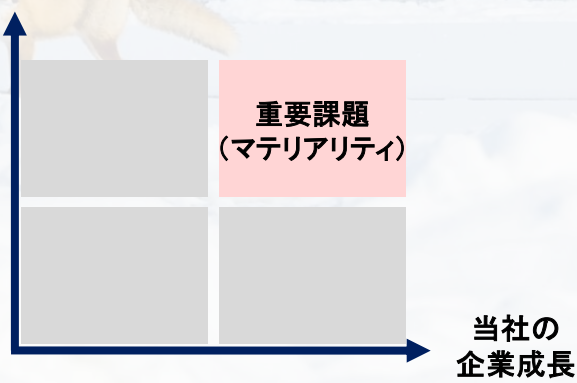
目標・KPIs

1	脱炭素社会実現への貢献	 	温室効果ガス排出量を2030年まで毎年2.7%以上削減する。
2	ワークライフバランスの充実	 	有給休暇取得率を70%以上にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



株式会社ビリーブ

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

目標・KPIs

1

脱炭素社会実現への貢献



温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

ワークライフバランスの充実

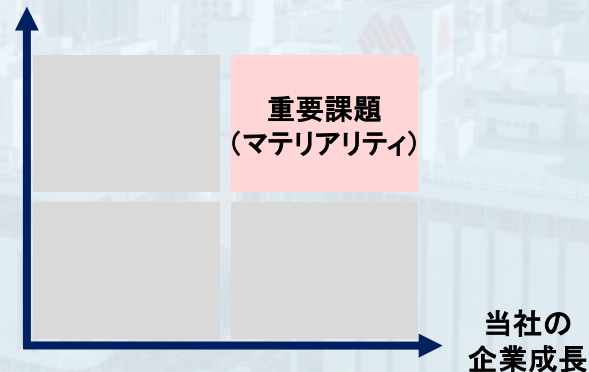


有給休暇取得率を70%以上にする。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



有限会社丸八翔栄

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

目標・KPIs

1

脱炭素社会実現への貢献



温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2

人的資本経営の推進

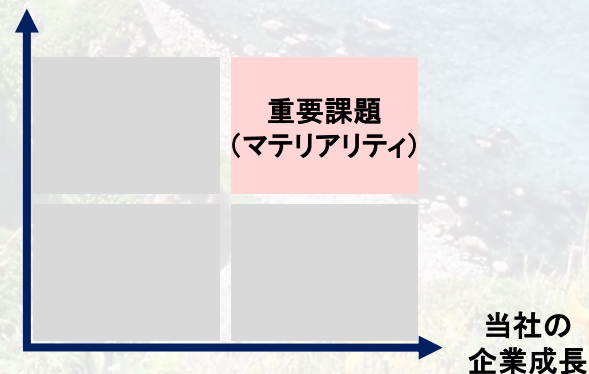


役職員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿



村本空設工業株式会社 サステナブル経営支援ローン 評価レポート

評価日: 2026 年 5 月 19 日

株式会社北洋銀行
新琴似支店

1. 基本情報

企 業 名	村本空設工業株式会社	
代 表 者 名	村本 浩平	
所 在 地	- 本社 札幌市北区新琴似 7 条 5 丁 4 番 26 号 1 階 - 支店 札幌市北区新琴似 8 条 8 丁目 3 番 5 号 - 倉庫 札幌市北区新琴似町 549 番地 31	
資 本 金	500 万円	
従 業 員	10 名 (2026 年 5 月現在)	
業 種	建設業	
事 業 内 容	- ビル・商業施設・テナントなどの空調工事 - 空調設備工事・空調換気工事・換気工事 - 上記に付随する設計から施工、給排水衛生設備工事、電気工事	
沿 革	1995 年 4 月 2013 年 1 月 2022 年 12 月 2024 年 5 月 2025 年 1 月 2026 年 5 月現在	空調工事に従事していた村本直樹氏が「村本工業」として独立創業 村本空設工業株式会社を設立 札幌市北区新琴似町に事務所兼倉庫を新設 村本浩平氏が 2 代目として代表取締役へ就任 本社を現在地に移転 空調・換気ダクト工事の設計・施工の一貫体制を推進

2. 経営理念

経営理念

ホッと一息つける快適な空間を

当社は、厳しい気候の北海道だからこそ、「ホッと一息つける快適な空間を提供したい」という思いを胸に、日々お客様に寄り添った提案と丁寧な施工を行っている。

空調設備の設置過程で必要になった諸工事も自社で請け負うことで、急な依頼にも迅速に対応している。当社は、「お客様のニーズに合った、確かで丁寧な仕事を心がける」ことを信念として、お客様に安心して利用してもらえるように品質にもこだわっている。

3. 事業概要

当社は札幌市北区に本社を置く総合空調工事企業である。空調機器の取り付けに加え、給排水衛生設備、電気配線など空調周辺設備工事を一貫して請負うことができるため、工期の大幅短縮を実現。特に空調・換気ダクト工事の設計・施工の一貫体制を推進している。

創業者である村本 直樹氏は義理堅く、一生懸命な人物を積極的に応援する人柄で、異業種交流会への参加等で交友関係を構築しつつ、お客様の依頼に素早く対応する業務方針により顧客を確保してきた。また、創業以来築き上げた技術と経験をもとに、数多くの施工実績を有しており、新築の大型商業施設から既築の店舗などの改修・リニューアルと幅広く対応してきたことで、盤石な事業基盤を築いている。

主な事業内容は以下の通りである。

【空調設備工事】

新築の建物への設備導入から既築の空調設備の改修・リニューアルまで、お客様のニーズに合わせた施工を実現。喫煙室の換気や厨房の排気など空調機器の取り付けだけではなく、ダクト工事も施工・取り付けを行っており、お客様のニーズに合わせた施工により、快適な空調空間を提供している。

【エアコン工事】

ビルや商業施設などの各種施設からテナントまで、幅広くエアコン工事を行う。「エアコンが古くなって調子が悪い」、「もっと省エネなエアコンに変えたい」など、新規の取り付けや交換はもちろん、業務用パッケージエアコンの冷媒ガス回収など、幅広いニーズに対応している。

【ダクト工事】

ダクト設備は、ビル・商業施設・コンサートホールなど多くの人が集まる施設において、温度と湿度を調節する大切な役割を担う欠かせない設備である。当社は、主に空調ダクト・換気ダクト・厨房ダクトの3種類を取り扱っている。また給排気ダクトなどの様々なご要望にも対応可能であり、施設の構造に合わせて、冷暖房が効きやすい設置場所や機種を提案。空調工事と合わせた受注を行っている。

■空調工事の様子



■換気工事の現場



■ダクト工事施行例



出所:村本空設工業 提供資料

4. サステナビリティ活動

当社の現代表者である村本 浩平氏は、創業者の姿勢を引き継ぐとともに、働きやすく、安心して活動できる職場環境の整備に注力。福利厚生として、年に一回従業員とその家族が参加できる社員旅行や、定期的な懇親会を開催。「職員一同働くときは働き、遊ぶときは遊びます。」をモットーとし、仕事にメリハリをつけることで、集中力向上による生産性の最大化やストレス軽減による心身の健康の維持につなげている。

また、2025年12月期は労働環境を改善させ、従業員一人あたりの負担を軽減させる目的から、従業員を増やし、外注割合を増加させたことで、残業時間と労務日数の削減を実現した。

当社は、お客様満足度はもちろんのこと、従業員満足度の向上にむけ、職員一人ひとりが能力を十分に発揮できるよう体勢づくりに取り組んでいる。

■懇親会の様子



■社員旅行の様子(2026年 石垣島)



出所: 村本空設工業 提供資料

環境面は、空調・換気工事を通じて、省エネ設備の提案・施工に努め、CO₂排出削減と快適な空間づくりを両立させている。フロン排出抑制法を遵守した冷媒管理や産業廃棄物の適正処理に取り組むとともに、安全教育と技術継承を進め、地域と共生する持続可能な企業づくりにより、SDGsの達成に貢献することを目指している。

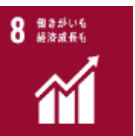
5. サステナビリティ目標

当社の更なる企業価値の向上と、持続可能な開発の実現にむけた社会課題を踏まえ、以下のサステナビリティ目標を設定した。この目標は、当社の事業エリアである北海道が持続的に発展し、魅力ある地域を創り上げていくために策定した「北海道総合計画(2024)」などを参照し、設定したものである。目標達成への企業行動を通じて、村本空設工業のプレゼンス向上と地域社会が目指す姿の実現に貢献するものであり、目標は有意義である。

(1) 環境面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	脱炭素社会実現への貢献
目 標 ・ K P I	① 温室効果ガス排出量の可視化を実施する
関連する SDGs	 

(2) 社会面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	人的資本経営の推進
目 標 ・ K P I	① 消費者物価指数を上回る賃金上昇を継続して実施する
関連する SDGs	

留意事項

本文書は、北洋銀行が借入人に対して実施する「サステナブル経営支援ローン」に際し、借入人の企業経営とサステナビリティ目標に対する北洋銀行の評価を述べたものです。

本文書に記載された情報は、現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

北洋銀行は当文書のあらゆる使用に起因して発生する全ての直接的、間接的損失や派生的損害については、一切義務または責任を負わないものとします。

本評価書に関する一切の権利は北洋銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。

村本空設工業株式会社

Sustainability Commitment

2026年5月

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の企業行動を行うことを誓約します。

重要課題 (マテリアリティ)

1 脱炭素社会実現への貢献



目標・KPIs

温室効果ガス排出量の可視化を実施する。

2 人的資本経営の推進



消費者物価指数を上回る賃金上昇を継続して実施する。

重要課題と目標・KPIについて

当社は北海道総合計画等を参照し、北海道の目指す姿に貢献しながら、自社の企業価値向上に繋がる取り組みを「重要課題」と特定し、その実現に向けた目標・KPIを設定しています。

北海道が目指す姿

